

令和 7 年度 和泉葛城山ブナ林事業報告

1	令和 7 年度の事業実績概要	1
2	コアゾーンにおける調査	1
3	コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理	5
4	バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動	8
5	管理体制の確立・適正な利活用の誘導	9

令和 8 年 4 月

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

1 令和7年度の事業実績概要

令和7(2025)年度は、令和2(2020)年度に策定した「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」に基づき、コアゾーン、バッファゾーンで各種調査を実施するとともに、シンポジウムを開催した。

2 コアゾーンにおける調査

(1) 天然下種更新モニタリング

【計画】

令和6(2024)年に多くの結実がみられたことから、令和7(2025)年に発芽する可能性があるため、確認に努め、確認された場合はその生育状況をモニタリングする。

【実績】

- 調査概要

発芽個体の確認調査を行った。

- 調査時期

令和7年4月10日、6月5日、6月12日、7月18日、8月3日

- 調査者

田中正視委員、和泉葛城山ブナ愛樹クラブ

- 調査結果の概要

新たな実生がわずかに確認されたが、5月までにすべて消失した。

(2) 花芽・結実調査

【計画】

種子生産の豊凶周期を把握するため、3月～4月にかけて花芽調査、11月に結実調査（殻斗調査）を主に目視観察により実施する。

【実績】

- 調査概要

① 花芽調査：樹上の花芽、種子および殻斗の着生状況を観察し、豊凶の程度を評価した。

② 結実調査：令和2年度に選定したコアゾーン内のブナ64本を調査対象木として殻斗の着生状況を0、1、3、5の4段階で評価した。

- 調査時期

① 花芽調査：令和7年4月6日、4月19日、6月12日、7月18日、8月3日

② 結実調査：令和7年10月23日、11月15日、11月27日

- 調査者

① 花芽調査：田中正視委員、和泉葛城山ブナ愛樹クラブ

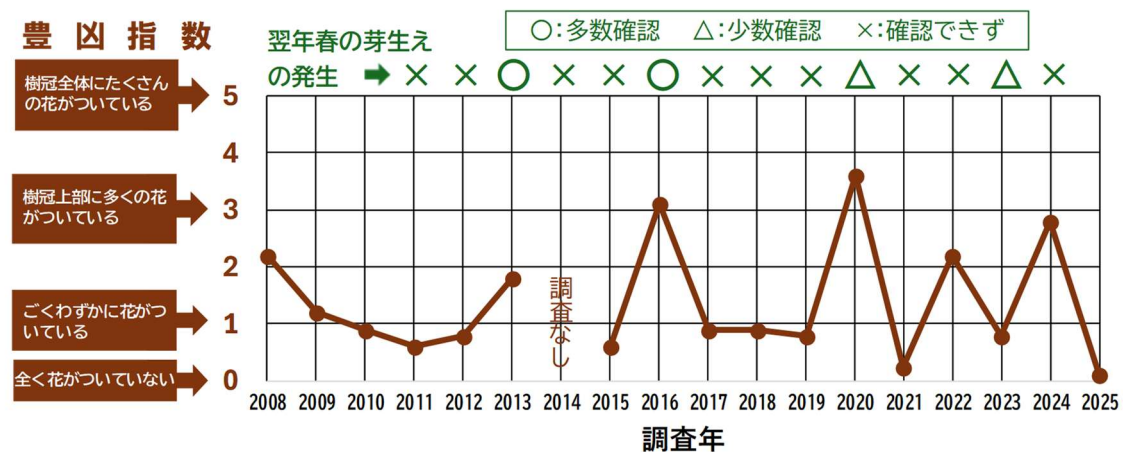
② 結実調査：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所、和泉葛城山ブナ愛樹クラブ

- 調査結果の概要

① 花芽調査

花芽はほとんど確認されず、開花の豊凶指数によれば5段階の0に相当した。

和泉葛城山ブナ開花の豊凶指数（ブナ愛樹クラブ調査結果）



② 結実調査

令和7年度の殻斗の着生状況は芳しくなく、1と判断されたものが最も多く約67%、次いで0と判定されたものが約28%と、ほとんど殻斗の着生のみられない状況の個体が大半を占めていた。比較的着生状態の良い3と判断されたものは約5%であり、最も着生状態の良い5と判断された個体は確認されなかった。着生状況から算出された豊凶指数は0.81となり、令和3年度や令和5年度よりやや高い値であるものの、ほぼ同等の値に留まった。豊凶指数が「3.5以上」で豊作、「2以上3.5未満」で並作と判断されることから、種子生産量調査の結果からも示唆されるように、令和7年度は凶作であった。

調査年度	R02	R03	R04	R05	R06	R07	
着生状況	0	24	3	27	2	18	約28%
	1	8	39	40	37	21	約67%
	3	38	1	18	32	3	約5%
	5	18	3		9		
豊凶指数	3.31	0.66	1.70	0.58	2.53	0.81	

(3) 花がら・種子調査

【計画】

開花状況、種子の生産、種子病原菌の状況、散布の状況および種子健全度の経年変化を把握するため、トラップ布による花がら（落下した雄花序）及び種子の採取調査を行う。

調査地点はコアゾーン4プロットとし、各プロットにつきトラップ5基を継続的に設置している。

健全な種子が採取できた場合は有効活用を図る。

【実績】

• 調査概要

令和元（2019）年度に選定した調査対象木 20 本に種子トラップを設置し、期間中 4 回に分けて落下物を回収し、ブナの器官別（花がら、種子、殻斗および葉）とその他に分別した。回収した種子は水選による充実度の判定、目視による虫害等の被害の有無等により分類した。

• 調査時期

落下物回収：令和 7 年 5 月 29 日、8 月 28 日、11 月 27 日、令和 8 年 2 月 24 日

• 調査者

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

• 調査結果の概要

令和 7 年度の落下種子数は合計 242 個であり、令和 6 年度の 4,608 個から大きく減少した。このうち 231 個（約 95.5%）が虫害、10 個（約 4.1%）がしいなであり、健全種子は 1 個（約 0.4%）の計の確認に留まった。この健全種子も、5 月 29 日の回収時に確認されたものであることから令和 6 年度に生産された種子である可能性が高く、令和 7 年度には健全種子の生産はなかったと考えるのが妥当である。ブナ雄花も全く確認されず、令和 6 年度の約 135g から大きく減少し、計 272 個の種子数と約 0.01g のブナ雄花量だった令和 5 年度と同様の傾向となっていた。

令和 7 年度の回収時期ごとのシードトラップ（計 20 m²）での収集内容

回収 期間	種子数			殻斗 数	ブナ雄花 重量 (g)	ブナ葉 重量 (g)	その他 重量 (g)
	健全	しいな	虫害				
2/27～ 5/29	1	8	202	313	0	28.9	1411.3
5/29～ 8/28	0	0	24	41	0	108.7	2037.0
8/28～ 11/27	0	2	5	14	0	2349.4	4100.5
11/27 ～2/24	0	0	1	6	0	182.3	1409.3
合計	1	10	232	374	0	2669.3	8958.2

3 コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理

(1) 植生調査

【計画】

シカによる食害を受ける前の植生状況把握としても位置付け、コア・バッファの植生調査・毎木調査を計画し、実施する。

【実績】

・実施概要

過年度の植生調査データの確認、現地視察による方針検討、調査計画検討、コアゾーン、バッファゾーンにおける過去の調査地点の確認と調査枠の再設定、毎木調査を実施した。

・調査日

コア毎木調査：令和7年4月10、11日、6月5、6日

コア植生調査：令和7年6月12、26日、7月10、25、31日、8月18日

バッファ調査枠の再設定作業：令和7年11月20、26日、12月3日

バッファ毎木調査：令和8年3月11、12、18、19日

調査スケジュール（●：実施、○：予定）

		2024年度		2025年度			2026年度
		12月	3月	6～9月	11～12月	3月	4～9月
コア	枠設置	●					
	毎木調査		●	●			
	植生調査			●			
バッファ	枠設置				●	●	
	毎木調査					●	○
	植生調査						○

・調査者

ワーキンググループ、トラスト協会、ブナ愛樹クラブ、植物調査員（環境アセスメントなどの調査歴20年以上）、大阪公立大学

・調査結果の概要

コアゾーン毎木調査結果：2013年調査結果からの変化は小さい。

コアゾーン植生調査結果：高木層に大きな変化なし。草本層の種数増加。常緑樹が増加。

2026年3月、4月に、1986～1988年調査区8地点、2009年調査区13地点のモニタリング毎木調査を実施。

(2) 生育環境調査

【計画】

ブナ林の南限に近いとされる和泉葛城山のブナ林では、夏場の気温上昇がブナの生態に影響を与える可能性が考えられるため、過年度からの通年測定を継続し、長期間の森林生育環境データを取得して、分析する。

調査地点は令和6(2024)年度と同じ、コアゾーン2カ所、バッファゾーン7カ所とする。

【実績】

・調査概要

代表地点であるコアゾーン1地点(No.9)、バッファゾーン1地点(No.3)での気温測定を確実に行うことに重点を置いて、その他の測定項目は参考として扱う。

・データ回収日

令和7年5月29日、8月28日、11月27日、令和8年2月24日

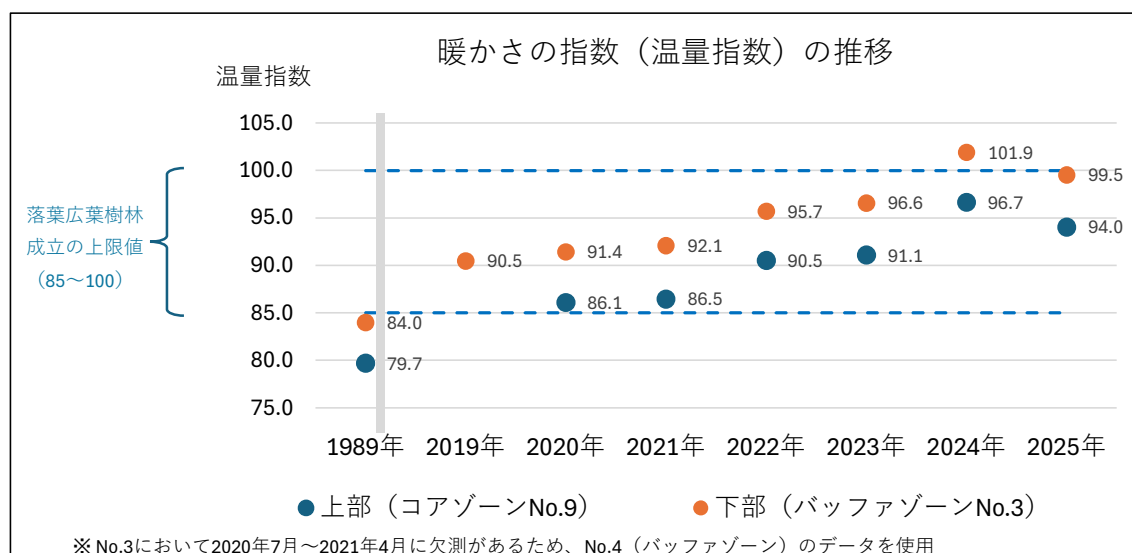
・調査者

データ回収：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

データ整理：トラスト協会

・調査結果の概要

過年度からの測定記録などを表に整理し、異常値検出期間を除外して、日平均気温、日最高気温、日最低気温、日平均湿度、日平均日射量、土壌水分量の変化をグラフ化した。令和7(2025)年度の暖かさの指数(温量指数)は、2023年より高く、2024年より低かったが、過年度からの推移をみると上昇がみられた。



(3) 哺乳類モニタリング及び獣害対策

【計画】

ニホンノウサギやアライグマが優占する生息状況が確認された一方で、イノシシの増加や2023年におけるニホンジカの確認など、植生や生態系への影響も懸念されることから、

自動撮影カメラによる合計 12 カ所の監視を継続する。

ニホンジカの侵入やアライグマやイノシシ等の増加による植生への影響がみられた場合、対策フローにしたがって措置を講じる。

【実績】

・ 調査概要

気象観測器地点や動物の移動経路と考えられる地点のなかから 11 地点、さらに 6 月の現地視察結果を踏まえてニリンソウの谷にカメラを 1 台設置し、合計 12 地点に自動撮影カメラを設置した。

撮影した哺乳類の種類ごとの撮影頻度指数を算出した。

$$\text{撮影頻度指数} = \frac{\text{のべ撮影個体数}}{\text{カメラ稼働日数}} \times 100$$

なお、6 月の回収時に 1 台の故障が確認されたため交換を行った。

・ 調査時期

データ回収：令和 7 年 5 月 29 日、
8 月 28 日、11 月 27 日、令和 8 年
2 月 24 日

・ 調査者

地方独立行政法人 大阪府立環境農
林水産総合研究所

・ 調査結果の概要

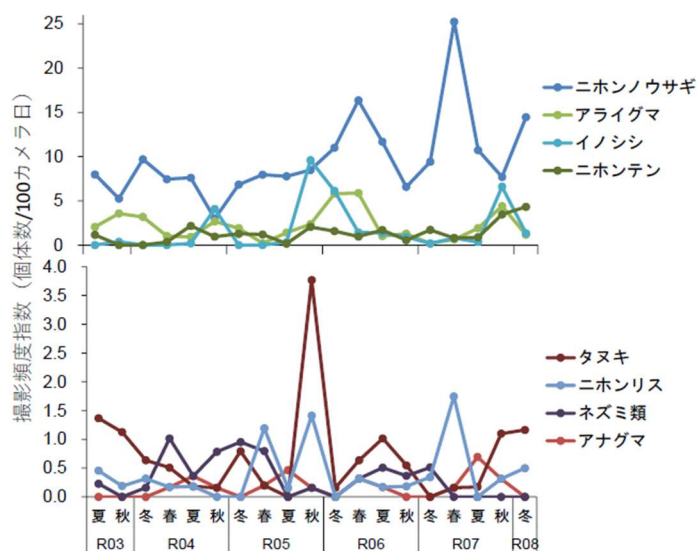
令和 7 年 3 月 1 日以降のデータを用
いた、調査地点ごとの撮影された哺
乳類と撮影頻度指数を示す。

12 地点での調査の結果、のべ 4,044 日
のカメラ稼働日数で、計 13 種、のべ 933
個体の哺乳類が撮影された。

これまでと同様にニホンノウサギやア
ライグマが優占する生息状況が確認され
た一方で、イタチ類が初めて確認され
るとともに、ニホンジカとハクビシンが再
度確認された。今後の動向に注意が必要
であると考えられる。

特にニホンジカについては周辺地域での確認事例も増加していることから、今のうちに対策を検討しておく必要がある。具体的には、ブナの稚樹や実生が多い地域に予防的に植生保護柵を設置することや、現在はコアゾーンとバッファゾーンに限定されている自動撮影カメラの設置地点を周辺エリアにも拡大し、より広範囲を監視することを検討すべき。

別途実施している過去の植生データの再調査結果も含め、ブナ林の保全のための継続



的なモニタリング調査が求められる。

4 バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動

(1) ブナ若木の育成

【計画】

バッファゾーン植栽地において、植栽したブナの生育環境を維持・改善するため、枝払い、刈払い、清掃などを行う。

2024 年に採集・播種した種子のモニタリングを行う。

また、植栽地の中で、周辺樹林の成長などによって日照条件が悪く、生育の悪い植栽木が確認された場合、バッファゾーンの生育適地への移植を行う。

【実績】

- 実施者

ブナ愛樹クラブ、トラスト協会

- 実施概要

定例活動時に枝払い、刈払いなどの維持管理を随時行った。

なお、2024 年に採集・播種した種子からの発芽は無かった。

(2) 森林保全整備

【計画】

立木の健全な育成による森林被害の未然防止、林内照度の上昇による公益的機能の増進、ブナとの混交林への移行を目的に、森林保全整備を行う。

2024 年に新潟ブナ伐採跡地における新潟ブナの萌芽を調査したが確認できなかったため、情報確認のうえ再調査を行い、確認された場合は伐採する。

【実績】

- 実施者

ブナ愛樹クラブ

- 実施概要

登山道、作業道、車道をふさぐ倒木の伐採や枯死木の伐採等を行った。

新潟ブナ伐採跡地で調査を行ったが、植生の繁茂が著しく萌芽が確認できなかったため、再調査を検討する。

1998 年から 2002 年ごろバッファゾーンのブナ植栽地に混植されたイヌシデについて、苗木の由来（購入先）によっては遺伝子レベルの交雑が懸念されることから、トラスト協会が、当時を知る関係者への聞き取り、資料探しを行ったが未確認。

（３）天然ブナ全数調査

【計画】

令和 8（2026）年度に天然ブナ全数調査を計画しているが、2021 年～2022 年の個体番号保全作業が実施できていないことから、作業を急ぐ必要がある。また、植生調査における毎木調査のなかでも天然ブナの調査・計測を行うことから、併せて今年度から着手する。

【実績】

2026 年 3～4 月にバッファゾーンで実施した毎木調査の中で、調査区内の天然ブナを計測した。

5 管理体制の確立・適正な利活用の誘導

（１）保護増殖検討委員会とワーキンググループ、関係者協議

【計画】

1 回の保護増殖検討委員会と、各種調査及び保護・増殖活動の進捗および成果の確認を行うため、2 回程度のワーキンググループ会議の開催を予定する。

シカ対策や看板設置などにおいて和歌山県側との連携が必要となっているため、会議資料等の情報共有を行う。

【実績】

以下のとおり保護増殖検討委員会及びワーキンググループ会議を開催した。

令和 7 年	4 月 24 日	和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会（第 1 回）（貝塚市）
〃	7 月 16 日	第 1 回ワーキンググループ会議（オンライン）
令和 8 年	3 月 10 日	第 2 回ワーキンググループ会議（オンライン）

（２）シンポジウムの開催

【計画】

市民のブナ林保全への関心を高め、保全活動への参加を促すことを目的としたシンポジウムを開催する。

【実績】

「～生物多様性に向けて～大切にしたい地域の自然」と題して、パネル展とシンポジウムを開催した。

・パネル展

和泉葛城山ブナ林の自然と調査活動、保全活動を紹介する A1 サイズのパネル 11 枚を作成。また、貝塚市、岸和田市などで活動する 9 団体の紹介パネル 9 枚を作成し、下記のパネル展を開催した。

- ・2026 年 1 月 7 日（水）～1 月 13 日（火）貝塚市役所 1 階エントランス
- ・同 1 月 21 日（水）～1 月 30 日（金）岸和田市役所 新玄関
- ・同 2 月 7 日（土）～2 月 22 日（月）貝塚市立自然遊学館

2026 年度にかけて、大阪府立図書館、大阪市立自然史博物館、近畿中国森林管理局森林のギャラリー、きしわだ自然資料館で開催予定

・シンポジウム

2026（令和 8）年 1 月 31 日（土）

- ・話題提供 「生物多様性の保全に向けて」
和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会 会長 佐久間大輔（大阪市立自然史博物館）
- ・里山、里海など保全活動団体の紹介
- ・意見交換会
- ・ポスターセッション、参加者交流会

参加者 71 名。当日の様子は YouTube で公開中→



（３）10 カ年計画の中間レビュー

【計画】

「10 カ年計画」（2021～2030 年）の後半にむけて、計画の見直し・修正、進捗状況、新たな課題などを追加・修正を行う。

【実績】

委員への個別ヒアリングを経て 7 月のワーキング会議において事業項目ごとの課題・方向性を確認し、2026 年度以降の事業計画の見直しを行った。

（４）看板の整備（利用ルールの検討と普及啓発）

【計画】

計画策定と関係者間の調整を行う。

【実績】

安全・利用ルールが看板計画のベースとなるため、大阪府文化財保護課、貝塚市、岸和田市の 3 者で内容検討し、案を作成中。和歌山県側との調整も必要。そのうえで教育・観察的要素を追加する。

（５）記念植樹看板の設置

【計画】

令和 5（2023）年 12 月に行った天然記念物 100 周年記念の植樹木について、目的や趣旨を周知する看板・石碑等を設置する。

【実績】

岸和田市教育委員会が設置申請し、紀の川市の許可が得られ、3月18日に設置した。



（６）巡回

【計画】

地元町会・自治会と連携し、3人の巡視員により、毎月1回の巡回を実施する。

【実績】

来訪者の状況、施設の状況などの報告、適宜ゴミの収集などを行った。

（７）自然共生サイトへの登録準備

【計画】

令和12（2030）年までの世界目標となっている「30by30目標」（陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標）に向けた「自然共生サイト」の登録に向けて準備を進める。

【実績】

申請資料となる生物情報の収集は大阪府レッドリスト改訂調査の結果を活用する。同調査の実施に向けて、自然公園法、文化財保護法の許可申請を行った。

2027年度中の登録を目指す。

（８）研究交流会の開催

【実績】

2026年3月10日に、オンラインで研究交流会を開催した。

コアゾーンで実施した植生調査の結果を幸田良介氏（環農水研）と林亜優氏（大阪公立大）から、毎木調査の結果を前中久行委員から報告された。

以上